



白城 壽一氏

新教区発足へ向け、確認された改編の目的は「お講の維持と発展強化」です。

○現状の理解と問題の把握
小松・大聖寺両教区では相統講制度が創設時の形で維持されてきました。それは所属寺院を問わず、集落や町ごとのご門徒が講を組織し近隣寺院とともに開法場の開き、また本山護持のための経費(相統講金)を集め、教務所へ直接届ける



真宗大谷派 (東本願寺)
小松教務所
〒923-0904
小松市小馬出町2-6
Tel 0761-22-0555
※11※ 保本・祝摩
編集 小松教区教化委員会

講金が寺院割当となったならば、手次寺院と所属門徒の縦の関係が優先され、門徒相互の横の繋がりは失われていきます。さらにお講の開催を基盤とした組門徒会が主体となつていく化事業も失われていきます。

新教区発足に向けて 小松教区会議長

白城 壽一氏

ことによりご門徒が本山を支えていることを実感できる仕組みです。この形は、地域のご門徒の繋がりを深め、また地域寺院の護持にも大きな力となつてきました。もし相統

○新教区を目指す方向性
新教区では相統講制度の維持発展を目指すべきではないでしょうか。教えを聞くことと本山を護ることが矛盾なく両立する。すなわち、「法義相統・本願護持」の相統講の精神を伝えていくこと。真宗王国と呼ばれる加賀の國を支えたのはこの精神です。
新教区では、より一層の組門徒会と地域寺院の相互協力が必要となります。

○新教区の具体的施策
第一に、地域寺院と組門徒による「小金」の活動をより充実させ、開法や研修の「場の創造」を推進しなければなりません。
次に、お講を支える世話方を生み出すための「人の誕生」

に向け、「推進員養成講座」を積極的に実施展開します。
この二つの施策が新教区に向けて企画されています。教区内全ての方々のご協力を賜りますようどうかよろしくお願いたします。

宗祖親鸞聖人 御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃法要

第1期法要 2023年3月25日(土)～4月8日(土)
第2期法要 2023年4月15日(土)～4月29日(土)
讃仰期間 2023年4月9日(日)～4月14日(金)



南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

四、 小松教区宗祖親鸞聖人 七百年御遠忌法要 昭和45(1970)年



上：旧教務所（昭和58年
まで芦城公園内にあった）
左&下：参詣の様子



永久保存

小松教区の歩み

来たる7月1日より新たに小松大聖寺教区が発足します。小松教区が幕を閉じるに当たって
これまで教区を支えてきた人々の足跡を振り返ってみます。

二、 教区制と小松教区

明治19(1886)年に、
教務所の前身である相統
講事務取扱所が全国17箇
所に設置されました。その
後徐々に各地に設置され、
改称を重ねて明治30(18
97)年に名称が教務所に
改められ教区制が設けられ
ました。金沢、小松、大聖寺
にそれぞれ教務所が設置さ
れましたが教区としては一
つでした。その後、昭和5
(1930)年の改正で、金
沢教区、小松教区、大聖寺
教区の三つに分かれ小松教
区が発足しました。



小松教区・相統講員台帳

三、 十字名号授与と「十二日講」

第22代現如上人(在位1889年~1911年)より授与された十字名号を本尊として、八つの組お講の総講である「十二日講」のお参りが始まりました。

十字名号



一、 相統講制度と八つの組お講



上：御消息(九日講組お講究)



右：双座の御影
(大正10年)

講制度を発令されました。
また、旧能美郡中の組お講へ御消息と双座の御影(教如上人・叡如上人)が授けられました。これを基に明治時代の中ごろまでに、旧能美郡(こおり)に八つの組お講が組織され、仏法興隆と宗門の維持相統の仕組みが形成されます。

※八つの組お講：奥津・古代・小松・坂津・徳橋
北坂津・十日講・九日講

江戸時代末期、
本山は4度にわた
る火災により御影
堂と阿弥陀堂を焼
失しました。両堂
再建を機に第21
代叡如上人(在位
1846年~1888
9年)は、明治18
(1885)年に「法
義相統・本願護持」
を目的とした相統

五、 小松教務所落成法要 昭和59(1984)年



上：現教務所(常盤会館)落成法要
下：満堂の参詣者



六、 郡中御影四百年記念法要・記念事業 平成7(1995)年



記念事業「石山本願寺始末記」
教区のお寺や一般公募の方たち
による演劇が行われた。

【郡中御影】
本願寺第8代蓮如上人の時代
に建てられた石山本願寺(現在の
大阪城の地にあった)を信長から
守るため旧能美郡の門徒が多く
の支援をしました。これらの功績
に対し、後に第12代となる教如
上人から能美郡中のお講へ親鸞
聖人と第11代顕如上人の二幅の
御影が授与されました。今も御影
をお掛けして僧侶・門徒が一堂に
会して報恩講を勤めています。

七、 小松教区蓮如上人 五百回御遠忌法要 平成11(1999)年



帰敬式
御門首をお迎えして

「蓮如さん百日法座」
本山より授受した蓮如上人御影をお運
びして百か所で法座が開かれました。
御影は常盤会館に安置されています。



八、 小松教区宗祖親鸞聖人 七十五回御遠忌法要 平成25(2013)年



お待ち受け記念事業 平成23(2011)年
「蓮如上人一代記/嫁着しの段」
市内の中高校生による歌舞伎が行われた。



「一四二講」
御遠忌法要までの142日間(3/1~
7/20)136会所で常盤会館の親鸞聖人御
影をお迎えして法座が開かれた。

【教区教化事業のご案内】

◇十二日講 毎月12日9時半～

【4月】白城壽一氏(静照寺)

【5月】安藤洋介氏

(大聖寺教区浄泉寺)

【6月】井上裕氏(金沢教区光徳寺)

◇日曜講座

毎月第1・3日曜9時半～

【4月】2日・16日

【5月】7日・21日

【6月】4日・18日

◇花まつり

4月1日～12日・平日9時～17時

常磐会館に花御堂を設置します。

随時お参り下さい。

◇両教区合同差別問題研修会

4月14日(金)13時半～16時

講師 ジェシー・釋尼萌海氏

講題 いのちは誰ののですか？

会場 大聖寺教務所

◇真宗入門講座

4月28日(金)19時～

5月26日(金)19時～

6月23日(金)19時～

講師 世野井光氏(称佛寺)

※会場記載のない事業は小松教務所

新教区について

小松教区、大聖寺教区では2021年3月24日開催の地方協議会において改編の合意がなされ、両教区の教区会及び教区門徒会の議決を経て、2021年6月1日に新教区準備委員会が発足しました。

準備委員会では、2023年7月1日の新教区発足に向けて組織、教化、財務、将来構想小委員会と正副主査会を設置して、幾度となく協議を重ねてきました。

2022年12月14日に開催された第5回新教区準備委員会で新教区の教化事業、規則、予算等が正式に議決されました。議決内容の抜粋を左記のとおり記載いたします。

【基本事項】

新教区の名称は「小松大聖寺教区」となります。新教区は2023年7月1日に発足します。現小松教務所は小松大聖寺教務所となります。一方の現大聖寺

教務所は大聖寺教務支所となります。

【相続事務】

小松教区と大聖寺教区の相続システムは統合となり、教務所・教務支所のどちらでも相続講の収納及び台帳確認が可能です。相続講台帳を後継者が引き継ぐ場合、未抜額の全額を引継ぎます。また、肩衣半額先渡し代(五千円)は無償となります。

【本山世話方】

重世話方は「組世話方(くみせわかた)」、字世話方は「町世話方(まちせわかた)」と名称が変わります。

【教区配布物】

同期新聞、教務所たより、新教区の教化広報紙は従来通り配布いたします。

編集後記

▼「小松教報」を引き継いで2006年に始まった「大寄小寄」は今号で47号となりました。各寺院やお講で活用されるような内容を心がけてきたつもりでしたが、時にはご指摘を受けることもあり、活字で伝えることの難しさを感じながらの作業でした。▼タイトルのお言葉「寄り合い談合せ上」にあるようにお講を表しています。「大寄」は小松教区の私たちにとっては十二日講のことでしょう。さらには本山の相続講も表しています。「小寄」は各組門徒会の組お講や各町のお講のことです。▼小松教区では、蓮如上人のころに始まるお講が絶えることなく受け継がれ、明治時代以降は八か所のお講が組織されてきました。このことは真宗の生活を次の世代へ伝える大事な役割を担ってきました。この仕組みがこれからも続くようにとの願いが込められて命名されました。▼2023年7月には大聖寺教区として統合改編されます。それにより広報紙「大寄小寄」は今号が最終号となります。広報紙は終わっても大寄小寄が次へと伝えられることを願うばかりです。 山内 謙